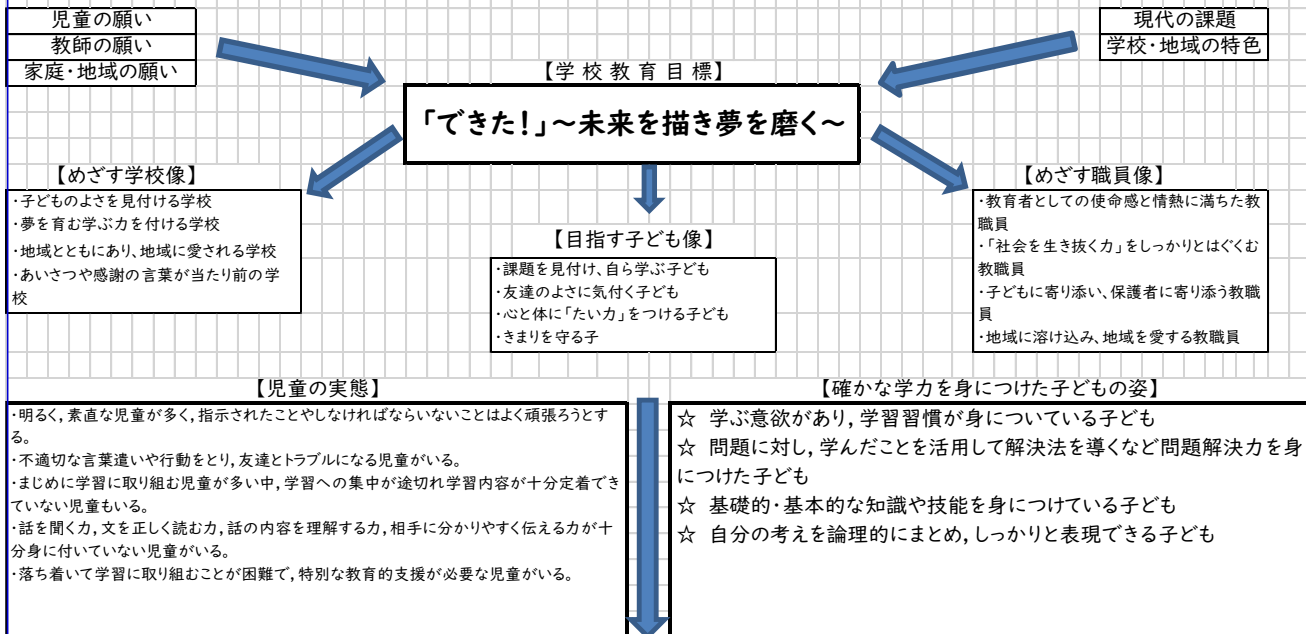


≪大園小 学力向上プラン≫

令和6年度大園小



【実践内容】

	< 学校 >	< 家庭 >	< 地域 >
基礎基本の徹底	○基礎基本の定着を図る「分かる授業」の実践 ○補充的な学習の充実 ○家庭学習課題の工夫 ○AIドリルを使った個に応じた学習	○基本的生活習慣の定着 ○持ち帰りPCでの家庭学習のサポート ○家庭学習の手引きを活用した家庭学習を進める。 ○教育相談体制を整備し、家庭との連携に努める。	
思考力・表現力等の育成	○主体的・対話的で深い学びの場の実現 ○思考を促す課題や発問の工夫 ○体験活動の充実 ○言葉の力をつける指導の工夫 (読み取り指導の工夫、国語辞典の活用、スピーチ等) ○読書活動推進と学校図書館の活用	○家庭学習(宿題・自学・音読練習)の徹底 ○家庭での「家族会話」の促進 ○親子読書の紹介	○豊かな体験の場の提供
学習意欲の向上	○子どもたちにわかる楽しさ、できる喜びを与える授業 ○一人一人の学びの足跡が見える授業 ○高め合い認め合い支え合う授業 ○理解を深めるクロムブック活用・電子黒板活用・プログラミング教育への取組 ○家庭学習課題の工夫(持ち帰りPCの活用等)	○賞賛と励まし ○通信やホームページを通した学習の様子を紹介	○地域の人、もの、ことの教材化 (生活科・総合的な学習での人材活用等)
学習時間の確保	○長期休業中の学習補充 ○読書時間を設定し本に親しむ時間を確保 ○長期欠席の児童へのオンラインを活用した授業	○家庭学習の習慣化(家庭学習の手引き)	○放課後子ども教室等、学童との連携による学習の確保
教師の指導力向上	○授業のUD化について研究・実践を行う ○クロムブックや電子黒板などデジタル機器を活用した授業改善研修	○課題を抱えた児童の保護者への支援・連携	○地域人材の活用
指導体制の充実	○学習困難な児童に対し、学校全体での指導・支援体制の構築 ○少人数指導やTT等の工夫 ○高学年による一部教科担任制の実施。		○学校関係者評価の充実

【学びを支える素地づくり】

< 学校 >	< 家庭 >	< 地域 >
☆望ましい学級集団づくり(児童間の認め合う雰囲気醸成) ☆学習規律の確立 ☆学習指導方法の工夫(特別支援教育・ICT教育の研究) ☆教師と児童の好ましい人間関係の構築 ☆教師と保護者との信頼関係の構築	☆基本的生活習慣づくり ・早寝 早起き 朝ご飯 ☆自立へのサポート ☆読書環境づくり ☆メディア・ゲームのきまり	☆地域行事での社会性育成 ☆地域の方の学校教育への協力 ☆地域の安全確保 ☆育成協等との連携

大園小学校 学びスタンダード

主体的・対話的で深い学びの実現

（「主体的な学び」の視点）

- 児童の学習課題の把握や解決への見通し
- 動機付けや方向性の提示の工夫
- 振り返りの場面の設定
- 表現活動の促し

（「対話的な学び」の視点）

- グループ（子ども同士、教師）における話合い・活動内容の充実
- 自分自身との対話（記録、感想、ノート 等）
- 実社会の人々からの聞き取り、フィールドワーク
- ICT の効果的な活用

（「深い学び」の視点）

- 追究の視点の明確化と課題の設定
- 資料等を基にした考察
- 課題解決に向けた選択・判断
- 論理的な説明、議論

単元など内容や時間のまとまりを見通した「めあて」を設定し、「見方・考え方」を働かせることで、事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、課題を把握してその解決に向けて構想したりする授業



そこで日々の授業の中で

- 発言を引き出し、子どもが語り合う場面を増やしましょう。
- 気付き、考え、感想・・・ノートやワークシート、クロームブック等に記述させ、今後の学習に生かせるようにしましょう。
- 教師の話をできるだけ減らし、子ども自身がしっかり学びと向き合う時間を確保しましょう。
- 15の春（中学卒業時）に希望が叶うように、「気付くまで」「できるまで」「わかるまで」の学習指導を徹底していきましょう

授業の流れ

自学（家庭学習）、既習事項、社会での実体験

授 業

- ① 学習課題の把握と解決に向けた見通し (めあて)
※ 四人発表
1. 前時のめあて 2. 前時のまとめ 児童の言葉から
3. 前時のふりかえり 4. 本時のめあて (学習計画)
- ② 課題解決のための追究 (学習活動)
 - ・ 言語活動
 - ・ 観察・実験
 - ・ 問題解決学習 等

- グループなどで対話する場面
 - 児童が考える場面
 - 教師が教える場面

→教師の組立て
- ③ 学習評価の充実 (まとめ) → 基礎的・基本的技能の確実な習得

言語活動を設定
- ④ 学習の成果を自己分析する (ふりかえり)

- ◎ 生きて働く「知識・技能」の習得
- ◎ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ◎ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

学力調査の結果を受けた重点的な取組

(国語)

- 長文に読み慣れる、長文を読み解く力の育成。
 - ・読書活動の充実
 - **選書指導**
「発達段階に応じた本を選び、傍に置き、眺めるのではなく、最後まで読み通しているか。」
- 思いや感想等、「。」3～4個程度で記す場面の設定。
 - 国語に限らず、書かれたものを写すのだけではなく、**自分で考えたものを文章として記す学習場面**を作る。本当の意味での学びの足跡。のちの思考の根拠となる。
「アンケートの記述欄」「鑑賞」等 **「書く活動」を意図的に設定**
- ◎ **「説明文」の授業を大切に。文章との出会いを重要視。**
 - ・構成を捉えて、**要旨（大体的内容）を把握**できているか。
 - ・目的に応じて**必要な情報（重要な語や文）**を見付けているか。
 - ・内容を理解し、**自分の考えをまとめる**ことができたか。

(算数)

- ◎ **「自力解決」の場面**の充実。
 - **既習事項や社会経験等に基づいた根拠**をもとに**予想を立て**、**解決を図り**、**発信交流し**、**よりよい結論解答に練り上げていく**。
 - ・式だけでなく、**根拠を記述・発信**
「どう思う?」「それは、どうして?」「なぜ?」

(その他)

- ◎ **学年ごとの「学力向上プラン」の設定と定期的な検証**
 - ・学力テストの結果も参考にして、**学年の「弱み」と「強み」**を分析。
 - ・具体的かつ継続的な方策を!!
 - ・何もしなければ変わらない。上手いかなければ、改めればよい。
- **「キュビナ」は、一人当たり週100問（習熟、隙間時間、家庭学習 等）。**
- 宿題 + **自主学習 → 自学ノート（クロム）、記録表、そして朱書き**
 - ・**15分×学年+15分**の家庭学習の時間の確保。
 - ・「自主学習」に取り組む意欲や力が、**これからの学びに必要な資質**。
- **学習の成果をはかる評価テスト等**へのさらなる真剣な取組。
 - ・**プレテスト等を実施し、単元ごとに一回一回丁寧に!!**
 - ・返却時は、**間違えた問題を再考し、訂正満点で持ち帰り。（自力解決）**
 - ・**一人一人目標値の設定と変容の把握。「自分は何を頑張ればいいのか。」**
- 研究授業・協議等、**校内研究を通じた授業改善、教師の資質向上**
 - ・**「UD化」を継続し、さらにスパイスを加えて、学力向上を図っていくスタンスで。**

1 年 生 算 数

傾向と実態

- 集中力が途切れる。
 - ・話を最後まで聞くことができない。根気強さに欠ける。繰り返しの作業を好まない。）
- 学力の二極化傾向が見られる。
 - ・10までのたし算ひき算ができない児童がいる。（数の概念が身に付いていない。）
- 丁寧さに欠ける。
 - ・文字の形が整わない。マスに入れることができない。

取り組むべき課題

- ①話を聞く力を育てる。
- ②数の概念を理解させる。
- ③問題の意味を理解させる。
- ④根気強く、最後まで丁寧に取り組む姿勢を身に付ける。

課題の解決策

＜授業＞

- ① 賛成・反対・類似の基本的な話形を使って発言をすることによって、友達の話を最後まで聞くようにする。
- ② 算数科の問題については、具体物を使って問題を提示することによって視覚情報を与える。操作活動を繰り返し行うことで、数の概念を養う。
- ③ 分かっていること、尋ねていること、単位等、問題文の中で大切な部分に線を引くなどの活動を定着させる。
- ④ 丁寧な手本を示す。丁寧に取り組んだ児童を称賛する。書画カメラなどを使って、様子を知らせる。

＜家庭学習・自主学習＞

- ・毎日、算数の宿題をプリント等を出し、基礎・基本の定着を図る。
- ・毎日、音読の宿題を出し、文章を読むことに慣れさせる。
- ・毎週水曜日にキュビナの宿題を出し、自主的に取り組ませる。

目指す児童の姿

- ・学習習慣が身に付いている子ども
- ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている子ども

＜知識及び技能＞92点

＜思考力、判断力、表現力等＞90点

2年生 算 数

傾
向
と
実
態

- ・文章問題の読解に苦手さを感じている児童がいる。
- ・基礎的な計算の定着が不十分な児童があり、計算に時間がかかる。
- ・全体的には学習に積極的な児童が多いが学習に集中できない児童も数名いる。

取
り
組
む
べ
き
課
題

- ① 基礎・基本の定着をはかる。
- ② 文章問題読解のための読解力の向上
- ③ 主体的に学習に参加できるようにする

課
題
の
解
決
策

<授 業>

- ① 授業内容を確実に定着させるために、練習問題に取り組む時間を十分に確保し、問題が早く終わった児童には、キュービナを活用し応用問題に取り組ませる。
- ② 文章題をとく際は、分かっていることや聞かれていることに線を引かせ、問題文の意図を確実につかませてから取り組むようにする。
- ③ 授業中に児童相互の意見を交換できる機会を多く設け、参加できる授業を実施する。

<家庭学習・自主学習>

- ・算数・国語の宿題を毎日出し、基礎・基本の定着を図る。
- ・毎日の宿題を習慣化する。(やり直しまで確実に終わらせる)
- ・週末にキュービナの宿題を出す。

目
指
す
児
童
の
姿

- ・基礎的基本的な計算の力を身に付けることができる。
- ・学習に集中し、主体的に授業に参加することができる。

<知識及び技能>

90点

<思考力、判断力、表現力等>

85点

3年生 算 数

傾向と実態

- ・学力は中程度の児童が多く、低位の子も見られる。
- ・文章題など思考力を問われる問題に苦手さを感じている児童が多い。
- ・学習に向かえない児童がいる。

取り組むべき課題

- ① 底上げのため、基礎・基本の定着をはかる。
- ② 文章問題の意図が分かるようになる。
- ③ 学習に向かえない児童が参加できるよう、学習する雰囲気作りをする。

課題の解決策

<授業>

- ・文章題を解く際は、分かっていることや聞かれていることに線を引かせる。また、図や言葉などを使って考えさせる。
- ・練習問題に取り組む際は解き終わった児童からキュービナに取り組むなど、基礎・基本の定着をはかる。
- ・算数的な活動を取り入れられる時間は取り入れ、授業への参加率を高める。

<家庭学習・自主学習>

- ・毎日、算数の宿題を出し、基礎・基本の定着を図る。
- ・毎日の宿題を習慣化する。
- ・週末にキュービナの宿題を出す。

目指す児童の姿

- ・分かった、できたと実感し、喜ぶ姿。
- ・学習に向かうのが難しい児童も授業に参加している。

<知識及び技能> 90

<思考力、判断力、表現力等> 85

4年生 算 数

傾
向
と
実
態

- ・全体的に学力が低く、自信がない子が多いため、授業中発表する児童が決まっている。
- ・問題文を正しく読み取ることができない。
- ・話を聞く力が弱い。
- ・基礎学力が低く、既習事項を使った自力解決が難しい児童がいる。

取
り
組
む
べ
き
課
題

- ① 基礎・基本の定着
- ② 話を聞く力、文を正しく読む力を身につける。
- ③ 自分の考えを図・表・数直線などで表し、説明できるようになる。
- ④ 途中であきらめずに、粘り強く取り組む姿勢を身につける。

課
題
の
解
決
策

<授 業>

- ① 全体で練習問題へ取り組み、本時の学習内容を理解させてから、各自量を選んでキュビナに取り組む。
- ② 問題文は声を出して読み、大事な箇所に線を引いたり、印を付けたりすることを習慣化させる。
- ③ ペア学習やグループ学習で、図や表、数直線などを使って自分の考えを伝えたり、わからない子に教えたりすることで、「みんながわかる」を目指す経験を積ませる。

<家庭学習・自主学習>

- ・毎日、算数の宿題をプリント等を出し、基礎・基本の定着を図る。
- ・毎日、音読の宿題を出し、文章を読むことに慣れさせる。
- ・宿題を習慣化し、徐々に自主学習にも取り組めるようにしていく。

目
指
す
児
童
の
姿

- ・「わかった」「できた」を実感している。
- ・自信をもって自分の考えを書いたり説明できたりする。

<知識及び技能> 75

<思考力、判断力、表現力等> 60

5年生 算 数

傾向と実態

○たし算・ひき算が十分にできない児童，かけ算九九が十分でない児童がいる。
○問題文の意味が十分に理解できず，立式できない児童，てきとうな立式をする児童がいる。
○説明を十分に聞けなかったり，理解できなかったりする児童がいる。
○授業に集中できない児童がいる。

取り組むべき課題

①話を聞こうとする態度，最後まで問題に取り組もうとする根気と集中力，問題の意味を理解する力の育成
②基本的な計算を速く正確にさせる。
③家庭学習を習慣化する。

課題の解決策

<授業>
①音読，視写の継続的な練習

②100マス計算・クロムブックの活用

<家庭学習・自主学習>
②100マス計算・クロムブックの活用

③家庭学習の点数化と称賛

目指す児童の姿

算数の学習活動に意欲的に参加し，集中して問題に取り組むとともに，内容を理解するためにあらゆる可能性を試しながら学習に向かおうとする子ども。

<知識及び技能> 80 点 <思考力、判断力、表現力等> 60 点

6年生 算 数

傾向と実態

できることできない児童の差が大きい。苦手な児童は、少人数で対応しているが、6年生になると、これまでに積み上げておかなければならない量が多いため、難しい。
応用問題も解くことができる児童と基礎的な学習問題が厳しい児童もあり、個人差が大きい傾向がある。

取り組むべき課題

- ① 基礎・基本の学習の定着をしっかりとさせる。
- ② 浮きこぼれの児童への対応。
- ③ 計算力向上が見られたら、文章題を多く解く。
- ④ 文章題の数直線化、図化、可視化。そこからの立式。この経験を積み重ねる。
- ⑤ 自分の苦手・弱点の自己分析。取り組むべき練習問題の自己決定。

課題の解決策

<授業>

T.Tのメリットを生かし、クラスを二つに分けて指導する。
ICTを活用し、課題への取り組み状況をお互いに見合うことができるようにする。
(相互参照)
スモールステップで、成功体験(「できた!」の経験)を積ませる。

<家庭学習・自主学習>

毎日、算数の宿題を出し、基礎・基本の定着を図る。
毎日の宿題(算数プリント、キュービナ)を習慣化する。

目指す児童の姿

「問題が解けた。できた。」と喜ぶ姿が、多く見られる。
「解けた。できた」と声が聞けることができ、自分に自信がついた姿。

<知識及び技能>90

<思考力、判断力、表現力等>80